

美術研究科博士後期課程 3 ポリシー

ディプロマ・ポリシー

■ 人材育成目標

専門分野に関する幅広い知識と教養、論理に裏付けされた創造性の高い表現力や独自性が高く整合性のある論述能力を身につけた人材を育成します。

■ 修了までに身につけるべき資質・能力

作品に対する感受性、制作技術、論理性、学術的知識を持ち、独創的な表現・研究を独自で実現しうる能力を身に付けます。また、社会的にも研究領域のリーダーとなりうるような幅広い知識と論理的思考能力を身につけます。

■ 学位の授与方針・評価方法

・所定の在学期間の確認及び必要単位修得の確認

・博士資格審査の手続きを経て学位の審査（口頭試問、博士作品、博士論文）に合格した学生に博士（美術）の学位を与えます。

・博士後期課程担当教員による資格審査合格、審査会による予備審査合格後、実技系学生の博士学位審査は、作品発表と論文発表の内容を審査委員会が審査し、理論系学生は論文審査をします。審査委員会は、専門性の高い実技・学術の本学教員、他大学教員、学術研究者で構成されています。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程は1専攻6分野で構成され、各分野の教員による幅広い視野からの学位取得を目的にした指導をおこなっています。

■ 教育課程の編成方針

一人一人の学生の特性に合わせた指導教員が編成され、複数の本学教員が主担当を中心とした専門的指導をおこなっています。同時に外部の作家・研究者を招聘して幅広い視点で学生が社会的評価を高めるための開かれた指導もおこなっています。

■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

1年次、2年次は年2回研究発表として作品展示と論文プレゼンテーションをおこない、年度末には論文集を刊行します。3年次は学位審査に向け作品・論文の発表を段階的に実施して本審査を受けます。

■ 教育課程の評価方針・方法

学位取得に向け研究発表の内容・作品が適切であるか、また進捗状況などを総合的に評価します。

1年次、2年次は博士後期担当教員による意見と主担当・副担当による総合的な判断により進級を決定します。3年次は博士後期担当全教員による資格審査合格後、審査会による予備審査、本審査をおこないます。

アドミッション・ポリシー

■ 求める人物像

- ・志望領域について高い知見と論理を構築する能力を有する人
- ・志望領域について創造性の高い表現力を有する人
- ・高い向学心を有し研究心が旺盛である人
- ・柔軟な思考力と物事に対する洞察力を有する人
- ・学位取得を達成する強い心と行動力を有する人

■ 入学前に身につけてほしい学習成果

- ・専門研究分野の基本知識と研究に必要な美術の幅広い知識を習得していること

■ 入学試験の基本的な方針・考え方

- ・ 専門研究分野により、その専門性に合わせた入学審査をおこないます。